

○ 教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

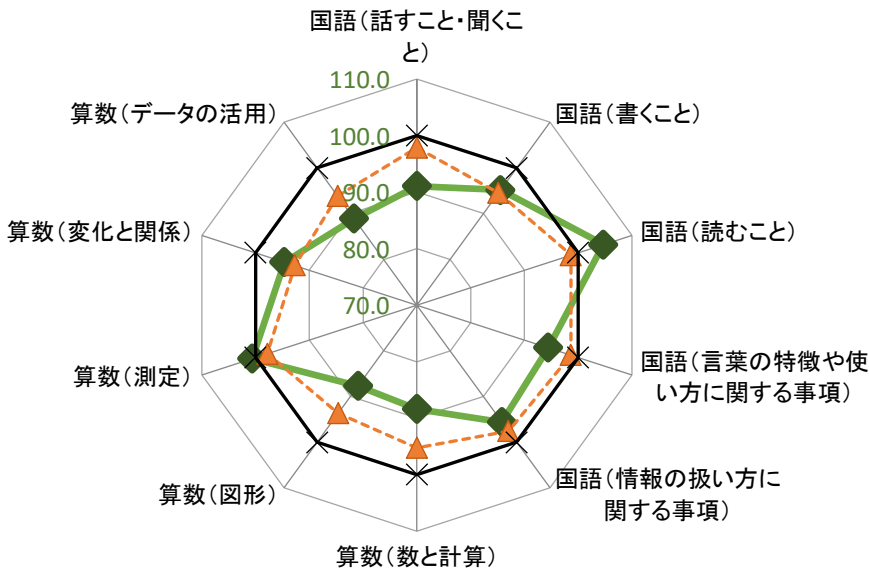
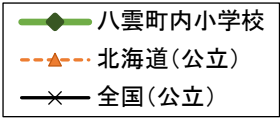
- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校英語の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

【平均正答率・平均IRTスコア】

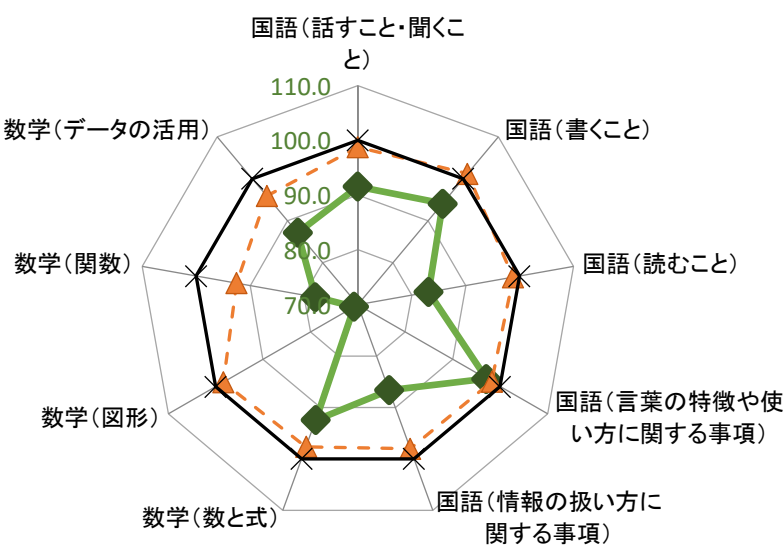
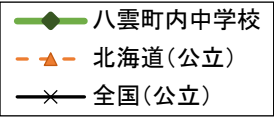
※中学校英語は4技能(聞くこと、読むこと、書くこと、話すこと)の平均IRTスコア

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
八雲町	58	51	59	48	454
北海道(公立)	59.6	53.6	63.3	55.0	490
全国(公立)	60.9	56.4	63.9	57.0	499

小学校



中学校

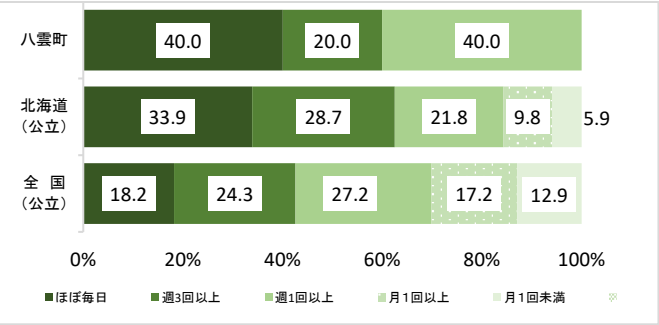


○ 質問調査の状況

小学校

<学校質問>

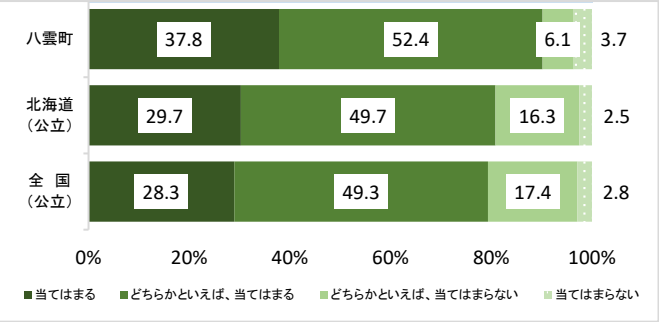
児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



小学校

<児童質問>

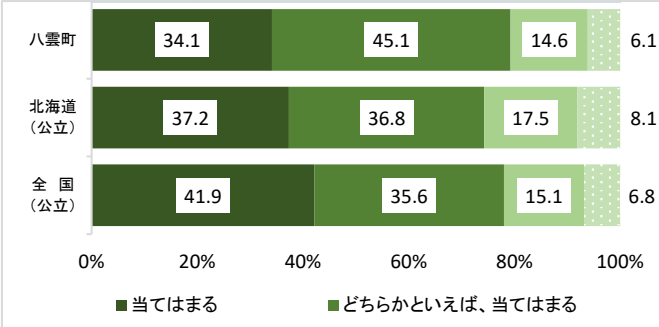
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



小学校

<児童生徒質問>

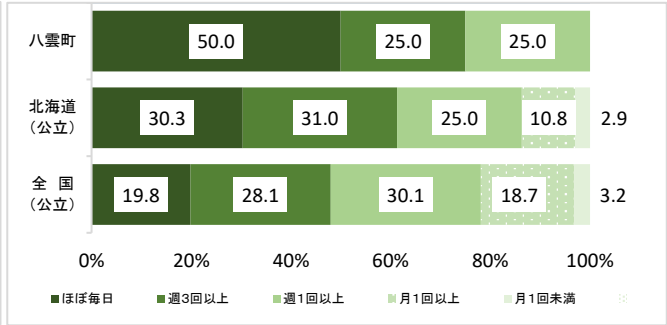
算数[数学]の授業の内容はよく分かりますか



中学校

<学校質問>

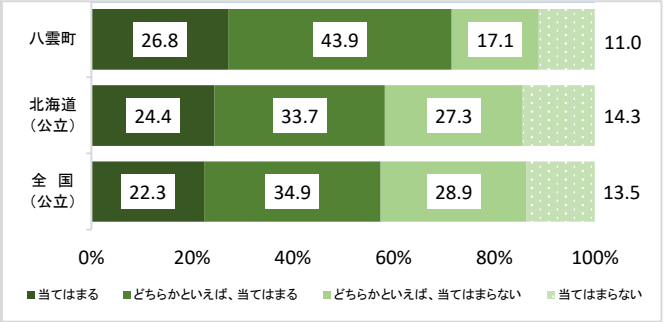
生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



中学校

<生徒質問>

国語の勉強は好きですか



中学校

○ 調査結果の分析

【成果】

ICT活用及び主体的に学習に取り組むための授業づくりに取り組むことにより、小学校において、児童同士がやり取りする場面でICTをほぼ毎日活用していると回答した学校の割合が全国を大きく上回るとともに、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校において、自分の考えをまとめ、発表・表現する場面でICTをほぼ毎日活用していると回答した学校の割合が全国を大きく上回るとともに、国語の勉強は好きと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

小・中学校とも、ICTを日常的に活用しながら、前向きに学習に取り組む土台が形成されつつある。

【課題】

小学校において、算数の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国を上回る一方、平均正答率は全国を下回っていることから、実感を伴う理解を問題解決力につなげることが課題であることから、情報を関係付け、既習事項を活用しながら、根拠をもって表現する力を高める必要がある。

中学校において、数学の勉強が好きと回答した生徒の割合が全国を上回る一方、数学の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国を下回っていることから、学習内容を確実に理解させるとともに、興味・関心の高さを深い理解につなげる授業改善が必要である。あわせて、「読む・捉える」から「考える・関係付ける・説明する」学びへ深める必要がある。

○ 今後の改善方策

- ・「基礎的・汎用的読解力」の育成に視点を当てた授業改善を継続し、情報を正確に読み取るだけでなく、複数の情報を比較・関係付け、既習事項を活用しながら、根拠をもって考えを表現する学習活動を充実させる。
- ・「八雲スタイル」の柱であるICT活用を一層推進し、情報の収集・整理・共有だけではなく、考えを深め、比較・関係付け、発表・表現するための効果的な活用へと質を高める。
- ・小学校及び中学校において、個に応じた支援を継続しながら、中間層の引き上げを図る。各学校が問題別、正答数分布及び質問紙調査を関連付けて分析し、小中9年間を見通した授業改善を推進する。